



「第四回森とせせらぎ祭り」について

実行委員長 平井資嘉寿

新年号に於いて、今年の「森とせせらぎ祭り」について、概略申し上げますが、七月の実行委員会決定したものを報告し、大要を述べさせていただきます。

日程は、十一月七日(日)午前九時開会、会場は高津区子母口の橘公園で舞台を作り、その周辺はテントを張り、一般のイベント広場として、自分達の手作りの料理や、品物を持ち寄って行う方式で、フロのテキ屋は入れないので、参加者や出店の人も安心して出来る様にして、昨年同様に大勢の皆さんで、楽しい「森とせせらぎ祭り」にしたいと考えています。



も立派な内容で成功する事を願っています。「森とせせらぎ祭り」は今年で四回目となりますが、三回目までは会場が中原区で、第一会場は「下小田中学校」、第二会場は旧教職員住宅跡地で行われ、漸く慣れた処、其の跡地に特養ホームが建設される事となり、急速、高津区子母口の橘公園を候補とし、行政側と折衝し、許可されまして、橘公園に舞台を作り、イベント会場を一本化して行う事に致しました。雨天時は子母口小学校体育館をお借りして、式典やイベントを、行う事と致しました。慣れない場所、祭り行事をやる事

森とせせらぎはがき絵展

中谷倭文乃

第二のふる里とも云える下小田中に住み四十数年、子供のころは江川せせらぎの様な小川が流れ夏にはホタルやめだか、野の草花を取りに行ったものです。現在にはがき絵教室を通して地域活動を高齢者の方や子供達、子育て世代の親子さん達と学びふれあうことが出来ます。今年の暑さは格別でしたが、真っ黒に日焼けした元気な子供達に会う事が嬉しい。今年はせせらぎ祭りも会場が変わり木々に囲まれた広々とした橘公園ではがき絵展が開催されました。



青空の中、自然とともに、はがき絵展ができる事に今から心がワクワクしています。子供が好き、人が好き、自然が大好きな私にとって沢山の方々とのお会いとともに感動出来る時間を精一杯楽しみたい。当日は、毎月のはがき絵教室で

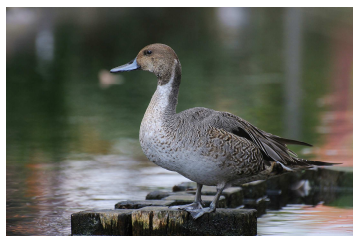
頑張っている子供達に賞品とともに「森とせせらぎ賞」を差し上げます。是非はがき絵に挑戦して出品して下さい。

野生動物ボランティア

センターの紹介
所長 皆川康雄

中原街道沿いの下新城交差点角地に位置する「野生動物ボランティアセンター」をご存知でしょうか?ケガをした野生動物を治療し、リハビリをして自然に帰す活動をしています。このセンターはあの湾岸戦争による油汚染ペルシャ鶺鴒救出で有名な馬場国敏先生の動物病院の付属施設で、今から十二年前の1998年に設立されました。

さて、今年はじめに江川せせらぎで飛べないオナガガモが発見されました。オナガガモは、冬にシベリアから日本に来る渡り鳥です。おそろく飛んでいる最中に何かにぶつかった様で翼を負傷していました。でも幸いなことに、元気に泳いで餌も自分で食べていたの、無理に捕まえずに住民の皆さんと静かに温かく見守っているところ。十一月七日の「森とせせらぎまつり」では、当センターを一般開放いたします。どんな動物が、どんなケガをして、どんなリハビリを受けているのか、ぜひ見に来てください。



オナガガモのロンサム君

各地の祭を訪ねて⑨

中世の雰囲気伝える津和野の祇園祭と鷺舞

佐藤 克明



感させ、伝統の根の深さを感じさせるものでした。この元は、九世紀に京都で疫病を鎮めるために行われた祇園会(ぎおんえ・祇園祭)の行事だったものが、十六世紀半ばに山口祇園会から津和野に伝承されたものでした。しかし京都では、町衆の力で江戸中期に盛大に行われるようになった山鉦や笠鉦に押され、鷺舞はすたれてしまいました。

作った羽をつけ、太鼓・鉦・鼓・笛と歌に合わせて両手で羽を広げたり、片足立ちしたりする、じつに優雅な舞いです。歌の詞からすると、七夕の牽牛と織女のために天の川に棧を渡したとされる鶴(かささぎ)が元だったようです。それにしても、舞いも歌詞も、また、祭のしきたりも、中世以来の伝承が今に生きていることを実感

夏休みを日本の伝統芸能の お稽古で過ごす子供たち

小学校五年生から六年生までの子供たちに乙女文楽を教えている財団法人現代人形劇センター・ひとみ座乙女文楽教室の修了生発表会を先日取材してまいりました。



写真上と左は乙女文楽教室の様子
下の写真は世界との文化交流の様子



灯笼流し御礼

森とせせらぎネット代表
平井資嘉寿

「地域の安心、地球の平和、祈りをこめて、灯笼流し」八月十五日(日)午後六時頃より、江川せせらぎ遊歩道の東屋近辺で、第三回灯笼流しを実施いたしました。

ひとみ座の乙女文楽三番叟をゆっくりご覧戴き、辺りが暗くなり始めた頃、待ち構えていた皆さんの灯笼に、一斉に点火され、灯笼流しが始まりました。灯笼はゆらゆらと流れていき、水辺では大勢の人々が見守っていました。神庭緑地の孟宗竹を切らせて戴き、一日がかりで夕方には六十本位の立派な置き灯笼が、出上がり、当日を迎えた訳ですが、流れる灯笼と、青竹の置き灯笼の灯りが水面に揺れている風景は、とても神秘的で、先祖の霊や戦争で亡くなられた方々の霊を慰めるには最高に気高く、崇敬な気持ちになりました。

また、この灯笼流しには、遠く横浜から参加された親子も居られ、「小学生達の情操教育にもなるし、この様な行事を行うことで、地域の人々との交流が図れる」と喜んで居られました。そして、ある老人ホームの人達より、私に「とても良い灯笼流しでした。来

夏休み中の十回足らずのお稽古でこれだけの舞を覚えることができるのかと改めて子供たちの吸収力の速さを実感いたしました。

子供たちに稽古を付けてくださる先生方には毎年、せせらぎ灯笼流しの幕開けを飾っていただいております、せせらぎネットとも関係深いことから、今後も毎年開催される乙女文楽教室に注目していきたいと思っています。

また今年の終了生たちのイベントも地元を中心に予定されているようです。(詳細は関係団体イベント紹介欄を参照ください。)



灯笼流し

「年は絵付けの時から参加したい」と、感謝の手紙を戴きましたので、来年はもっとスタッフを増員して、内容を充実し、定着した灯笼流しを行いたいと考えていますので、一般の方からの、建設的なご意見も戴きたく、ご理解とご協力を賜ります様お願い致します。

最後になりましたが、ご協力戴いた役員、町会、交通部等の皆様



には、連日に亘り、猛暑の中、ご苦勞様でした。厚く御礼申し上げます。

文化部・写真班 田中 達也

江川せせらぎで灯笼流しが開催されるのも、今回で三回目になります。

昨年までは写真班として当日の撮影に参加してきましたが今回の灯笼流しには灯笼流しボスター・灯笼制作・販売と企画段階からネットの皆さんと共に行動してきました。

夏が近づくとつれ気温は連日のように猛暑日を記録して厳しいなかでの準備作

江川が整備され、せせらぎ遊歩道として近隣の憩いの場所に生まれ変わり人々が集うようになり始めたところ、歳時記への想いが募り、森とせせらぎ祭りをかわきりに灯笼流しへと、地域参加のイベントを開催するに至ったと聞きます。

現代社会の世のなかにあって気薄になりつつある現状を憂いに想い八月十五日の夜に、人々が集い灯笼を水面に浮かべ流れ行く灯りを送りお盆の儀式を執り行う行事が、未来将来の人と人との橋渡しへと発展していくことを期待して私自身もここに集い続けたいと願いました。



関係団体イベント紹介

ひとみ座

乙女文楽教室修了生による二人三番叟・十月二日(土)午後六時・井田神社秋季例大祭宵宮

中原区市民健康の森を育てる会

矢上川クリーンアップ作戦・十月十六日(土)午前九時・問い合わせ先044-750-1910 青山まで

ひとみ座寄席

十月三十日(土)昼の部午後三時午後の部七時・問い合わせひとみ座寄席を楽しまる会044-777-2222

若竹幼稚園

森とせせらぎ祭り当日江川せせらぎ遊歩道でスタンブラリーを行います。



※お詫び※
稲本吼信氏による連載「詩吟」は次号に持ち越しとなりました。